

資料・統計

2022年中央手術部統計

Annual Report of Operations in 2022

新潟県立がんセンター新潟病院

中央手術部

1. 消化器外科

				腹腔鏡下	3
胃	170			非上皮性腫瘍	
胃癌				GIST	開腹 1
Staging laparoscopy	13			悪性リンパ腫	腹腔鏡下 11
切除				その他	0
全摘	開腹	4	その他	0	
	腹腔鏡下	11	<hr/>		
残胃全摘	開腹	1	食道		
	腹腔鏡下	1	良性腫瘍	0	
噴門側切除	開腹	1	非上皮性腫瘍	0	
	腹腔鏡下	19	食道癌	35	
幽門側切除	開腹	10	右開胸（腹腔鏡併用2）	2	
	腹腔鏡下	74	ロボット支援下（腹腔鏡併用3）	3	
	robot支援下	5	胸腔鏡下（腹腔鏡併用18）	21	
PPG	開腹	0	腹腔鏡下（下縦隔郭清あり）	3	
	腹腔鏡下	2	開腹		
SSD・部分切除	開腹	0	胸腔鏡併用咽喉食道全摘	3	
	腹腔鏡下	0	遊離空腸移植	0	
非切除				食道抜去	0
単開腹	1			頸部リンパ節郭清	1
バイパス	開腹	2	腹部リンパ節郭清	0	
	腹腔鏡下	3	食道切除後2次的再建術	0	
その他	0			胃管によるバイパス術	2
再発				胃管癌	0
肝転移切除	0			胃管全切除（胸骨縦切開）	0
卵巣転移切除	0			胃管部分切除	0
リンパ節郭清	0			特発性食道破裂	0
局所切除	3			<hr/>	
腸切除	0			肝胆膵	87
バイパス	0			肝腫瘍	
人工肛門造設	0			肝細胞癌	4
その他	0			肝内胆管癌	0
イレウス				転移性肝癌	18
癒着剥離	5			その他肝腫瘍	3
腸切除	0			胆道癌	
バイパス	0			十二指腸乳頭部癌	2
人工肛門造設	0			胆嚢癌	2
胃瘻・空腸瘻	0			胆管癌	4
腹壁癒痕ヘルニア				膵疾患	
修復術	開腹	0	膵臓癌	17	

	IPMA・MCN	2		下行結腸S状結腸切除術	5
	内分泌腫瘍	1		人工肛門造設術 (+CVポート)	5
その他悪性腫瘍				左半結腸切除術	1
	十二指腸癌	0		右半結腸切除+臍頭十二指腸切除	1
	GIST	0		盲腸切除術	1
	小腸癌	0	結腸良性		0
	NHL	0	(腹腔鏡下手術)		0
その他	その他悪性	8	直腸悪性		85
			(腹腔鏡下手術)		80
	胆石症・胆嚢ポリープ	24	(ロボット支援下手術)		3
	肝内結石症	0	低位前方切除術		34
	汎発性腹膜炎	0	前方切除術		17
	ヘルニア	0	直腸切断術		12
	腹腔内膿瘍	0	人工肛門造設術 (+CVポート)		11
	腸閉塞	1	超低位前方切除術		8
	閉塞性黄疸	0	骨盤内臓全摘術手術		2
	その他良性	1	後方骨盤内臓全摘術		1
術式	術後合併症	0	直腸良性		0
			(腹腔鏡下手術)		0
	肝葉切除+臍頭十二指腸切除	0	再発・転移		29
	臍全摘	0		(重複あり)	
	臍中央切除	1	肝切除術		10
	臍頭十二指腸切除	19	腹膜播種/再発腫瘍切除術		7
	臍体尾部切除	8	大腸部分切除術		3
	腹腔鏡下臍体尾部切除	2	卵巣摘出術		2
	肝切除	17	人工肛門造設術		2
	肝門部胆管癌手術	0	側方リンパ節郭清術 (腹腔鏡)		2
	胆嚢癌根治術	2	小腸部分切除術		2
	胆管癌手術	0	皮膚転移切除術		1
	小腸悪性腫瘍手術	0	バイパス手術		1
	腹腔鏡下胆嚢摘除	12	粘液除去術		1
	ラジオ波焼灼	2	肝転移		10
	腹腔鏡下肝切除	6		(上記原発再発症例に含まれる)	
	その他悪性腫瘍手術	1	異時		8
	開腹胆摘	10		(上記再発症例に含まれる)	
	総胆管切石	2	同時		2
	胆道再建	0		(上記原発症例に含まれる)	
	PTCD/PTAD	0	その他の手術		121
	その他	5		(内緊急手術)	10
			CVポート造設術		47
結腸, 直腸手術症例	全身麻酔手術	293		(重複あり)	
	その他の麻酔手術	42	他科癌・他癌手術		21
原発		196	腸管切除術		9
結腸悪性		114	腹膜播種/腫瘍切除術		5
(腹腔鏡下手術)		102	リンパ節生検		3
	右半結腸切除術	52	腸管修復術		2
	S状結腸切除術	28	人工肛門造設術手術		2
	回盲部切除術	8	人工肛門閉鎖術		18
	横行結腸切除術	7	CVポート抜去術		8
	横行結腸下行結腸切除術	6	鼠径ヘルニア根治術		5

急性汎発性腹膜炎手術（腸切あり）	4
急性汎発性腹膜炎手術（腸切なし）	4
直腸脱手術	3
吻合部狭窄拡張術	3
腹腔鏡下胆嚢摘出術	3
人工肛門造設術	2
イレウス手術	2
創離開再縫合	2
腹壁癒痕ヘルニア手術	1
小腸部分切除術（腹腔鏡）	1
閉鎖孔ヘルニア手術	1

2022年の消化器外科における各臓器での入院手術件数は、食道：35件（2件増加）、胃：184件（24件減少）、結腸・直腸：335件（55件増加）、肝胆膵：87件（20件減少）であった。鏡視下（ロボット支援下を含む）手術の件数（割合）は、食道切除：30件（85.7%）、胃切除：112件（87.5%）、結腸・直腸切除：196件（94.4%）、膵体尾部切除：2件（20.0%）、肝切除：6件（26.1%）であった。COVID-19の感染蔓延で減少した新規患者数が未回復であった中、待望されたロボット支援下手術の立ち上げを当科で主導し得た。今後は低侵襲手術や高難易度手術を積極的に実施して症例の集積を図り、本県の癌治療の中核として責務を果たせるよう一層の技術向上が望まれる。（文責 消化器外科 會澤雅樹）

2. 乳腺外科

外来手術	0例
入院手術	
良性+プローベ	3例
乳癌	321例
Auchincloss	60例
Mastectomy + SLNB	145例
Simple mastectomy	17例
Lumpectomy + Ax	8例
Lumpectomy + SLNB	49例
Lumpectomy	41例
Axのみ(オカルト乳癌?)	1例
その他	
局所再発（リンパ節、創）	5例
乳房内再発 乳房切除	10例
乳房内再発 乳房部分切除	2例
後出血	0例
その他	3例
エキスパンダー挿入（上記手術に算定済み）	
1次2期再建	12例

2022年の原発性乳癌手術数は321件で、昨年より

17件の増加であった。乳房温存療法の割合は約30%と昨年とほぼ不変であった。新型コロナウイルス感染症が5類に変更となり、乳癌検診の受診者が増加し、乳癌発見数も増えることが予想される。

（集計・文責 神林智寿子）

3. 呼吸器外科

（ ） 胸腔鏡手術

1. 気管（支）疾患	0
2. 肺疾患	247(229)
2-1 良性肺疾患	12(12)
炎症性腫瘍	10(10)
真菌症	0(0)
過誤腫	0(0)
肺動静脈瘤	0(0)
その他	2(2)
2-2 悪性腫瘍	235(217)
2-2-1 原発性肺癌	198(180)
全摘除	1(0)
肺葉切除	142(127)
区域切除	41(40)
部分切除	11(10)
試験	3(3)
その他	0(0)
2-2-2 転移性肺腫瘍	37(37)
大腸癌	26(26)
泌尿器生殖器腫瘍	3(3)
他消化器がん	4(4)
肺癌	2(2)
骨軟部腫瘍	0(0)
乳癌	1(1)
悪性黒色腫	1(1)
2-2-3 その他の悪性肺疾患	0(0)
3. 縦隔疾患	7(6)
3-1 縦隔腫瘍	7(6)
胸腺腫	2(1)
原発不明縦隔リンパ節癌	0(0)
縦隔リンパ節 他	5(5)
3-2 縦隔鏡検査	0(0)
4. 胸膜疾患	12(10)
気胸	3(3)
膿胸	0(0)
術後出血・膿胸	3(2)
術後肺ろう	6(5)
孤立性線維腫	0(0)
術後気管支断端瘻	0(0)
胸膜腫瘍（中皮腫）	0(0)
肺膿瘍	0(0)
その他	0(0)

5. 胸壁疾患	0(0)
6. そのほか	7(1)

合 計 273(246)

COVID19感染症による手術中止が約25日間あり、手術件数が約30件減少しました。(文責 青木 正)

4. 骨軟部腫瘍・整形外科

腫瘍性疾患

良性軟部腫瘍	
切除術 (切除個数)	135
生検	1
計	136

良性骨腫瘍	
切除または搔爬+骨移植	21
切除+人工関節	0
生検	7
計	28

悪性軟部腫瘍	
広範切除	14
広範切除+皮弁など再建	6
切断	2
生検	1
計	23

悪性骨腫瘍	
広範切除	0
広範切除+人工関節・自家骨移植	4
切断	1
生検	3
計	8

転移性腫瘍・脊椎	
除圧・後方固定	0

転移性腫瘍	
髄内釘・ピンニング	5
切断	1
広範切除+人工骨頭置換	6
創外固定	1
切除・生検	3
計	16

腫瘍性疾患 計 211

非腫瘍性疾患

外傷

創傷処置	1
骨接合術	6
創外固定	0
人工骨頭置換術 (股)	2
観血的関節受動術	0
観血的脱臼整復	0
外傷	計 9

感染

デブリードマン	9
骨搔爬術 (骨髄炎手術)	2
感染	計 11

その他

血腫除去	0
人工膝関節再置換術	1
切断 (感染, 壊死)	0
偽関節手術	0
骨延長	1
抜釘・異物除去	6
その他	計 8

非腫瘍性疾患 計 28

総合計 239

手術件数は239件 (28件減少), 腫瘍性疾患は前年 (239件) よりも減少した。腫瘍性疾患のうち良性腫瘍は164件 (9件減少), 悪性腫瘍数は生検手術を除く27件 (7件減少), 転移性腫瘍は16件 (1件増加) であった。症例数は昨年より減少したものの, 例年通りであった。術後感染に難渋する症例が多かったことと, 骨肉腫が年間3件と多かった。骨転移例は2021年から増加傾向がみられる。(文責 山岸哲郎)

5. 脳神経外科

総手術件数 15

1) 腫瘍摘出術	5
悪性腫瘍	4
良性腫瘍	1
2) 脳血管障害	0
血腫除去術	0
他	0
3) 頭部外傷	3
急性頭蓋内血腫	0
慢性硬膜下血腫	3
4) その他	7

オンマイヤー設置	4
定位的腫瘍生検術	2
他	1

本年の頭蓋内腫瘍摘出術は5例で、転移性脳腫瘍4例と良性腫瘍が1例であった。担癌患者が対象であり、合併症のある患者も多いため摘出術のできる状況が少ない。多くの症例が定位放射線治療の適応となっていて、定位放射線症例は本年度40例であった。嚢胞性の転移性脳腫瘍には局所麻酔下の穿頭術により生検やオンマイヤーリザーバーの設置術を行っている。安全性を高めるため腫瘍生検やオンマイヤー留置にはナビゲーターシステムを用いている。(文責 五十川瑞穂)

6. 婦人科

良性腫瘍・上皮内腫瘍手術	109
CIN3/HSIL・CIN2/HSIL	46
子宮筋腫	22
子宮内膜増殖症	6
子宮内膜ポリープ	2
卵巣腫瘍	29
リスク低減卵巣・卵管切除術	2
膈上皮内腫瘍	2

悪性腫瘍	142
子宮頸部腫瘍	17
子宮体部腫瘍	75
卵巣・卵管・腹膜腫瘍	48
外陰腫瘍	2

広汎子宮全摘術	5
子宮頸癌	5
子宮体癌	0

子宮体部悪性腫瘍手術	75
開腹手術	66
腹腔鏡下手術	8
その他(転移腫瘍摘出)	1

卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌手術	48
原発腫瘍	32
再発腫瘍	3
転移性腫瘍	5
卵巣境界悪性腫瘍	5
審査腹腔鏡	3

子宮頸部円錐切除術	43
-----------	----

その他の悪性腫瘍手術	2
外陰・膈悪性腫瘍手術	2

腹腔鏡下手術	28
良性卵巣腫瘍	12
悪性腫瘍に対する審査腹腔鏡	3
腹腔鏡下子宮全摘術	11
・子宮筋腫・子宮内膜増殖症	2
・子宮体癌	8
・子宮頸癌	1
リスク低減卵巣・卵管切除術	2

経頸管摘除術(TCR)	2
子宮内膜ポリープ	2
子宮筋腫	0

子宮内膜全面搔爬	2
子宮体癌疑い	2

その他	4
CVポート抜去	3
その他	1

手術総件数 257

2022年の手術件数は257件であり、昨年(318件)より約19%減となった。COVID-19による手術制限のためと思われる。しかし、子宮体癌に対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の移設認定と取得できたことにより、本年は8件施行し、腹腔鏡下手術は一昨年より2.5倍に増加し診療報酬の高い手術の割合が増加している。また遺伝性乳がん卵巣がん症候群に対する予防的卵管・卵巣切除術が2021年より保険適応となり、当院でも開始している。全体に占める悪性腫瘍手術の割合は2019年:33%から2021年:45%、2022年56%と年々増加をしている。

(文責 西川伸道)

7. 泌尿器科

副腎腫瘍の手術(小計1)	
腹腔鏡下副腎摘出術	1
腎腫瘍および腎の手術(小計81)	
根治的腎摘出術	20
腎部分切除術	21
経皮的腎腫瘍生検	4
経皮的腎瘻造設術	31
腎その他	5
腎盂・尿管腫瘍および腎盂・尿管の手術(小計105)	
腎尿管全摘出術	39

尿管カテーテル法 (留置を含む)	62
腎盂・尿管その他	4
膀胱腫瘍および膀胱の手術 (小計398)	
膀胱全摘出術+回腸導管造設術	21
膀胱全摘出術+尿管皮膚瘻造設術	2
膀胱全摘出術+回腸膀胱造設術	1
経尿道的膀胱腫瘍切除術	366
膀胱内血腫除去・止血術	5
膀胱その他	3
尿道腫瘍および尿道の手術 (小計4)	
尿道腫瘍摘出術	1
内尿道切開術	3
前立腺腫瘍および前立腺の手術 (小計312)	
前立腺生検	310
前立腺全摘出術	1
前立腺その他	1
精巣腫瘍および精巣の手術 (小計27)	
高位精巣摘出術	25
精巣その他	2
陰茎腫瘍および陰茎の手術 (小計4)	
陰茎部分切除術	2
包茎手術	2
その他 (小計1)	
総計	933手技 (898件)

2022年の手術件数は898件 (933手技) で、前年よりやや増加していた。内訳では、尿路上皮癌に対する膀胱全摘や腎尿管全摘、精巣腫瘍に対する高位精巣摘出術が増加していた一方、前立腺癌に対する前立腺全摘出術は他院にロボット支援前立腺全摘出術を依頼している影響で減少していた。当院においてもロボット支援前立腺全摘出術の導入が望まれる。
(文責 小林和博)

8. 皮膚科

【悪性腫瘍】

悪性黒色腫	57
基底細胞癌	95
有棘細胞癌	68
ボーエン病	37
日光角化症	12
乳房外パジェット病	5
皮膚附属器癌	2
悪性リンパ腫	2
転移性皮膚癌	4
血管肉腫	3
メルケル細胞がん	1
隆起性皮膚線維肉腫	2

悪性末梢神経鞘腫瘍	1
小計	289
【良性腫瘍・その他】	
母斑細胞母斑	89
上記以外の母斑	21
表皮嚢腫 (粉瘤)	90
粘液嚢腫	0
脂漏性角化症	49
脂肪腫	57
皮膚線維腫	18
軟線維腫	12
良性皮膚付属器腫瘍	24
血管腫	22
血管拡張性肉芽腫	11
ケラトアカントーマ	11
石灰化上皮腫	17
慢性膿皮症	1
良性神経系腫瘍	7
疣贅	4
リンパ球腫	0
毛嚢炎	0
血管平滑筋腫	1
癍痕 ケロイド	5
リンパ節生検	11
その他	29
小計	479

合計 768

手術件数は例年並みであるが、皮膚癌症例では高齢化が著しく、90歳以上の患者が15%程度を占めるようになってきた。局所麻酔下の手術といえども高齢者では様々な術中リスクがあるため、手術室スタッフの協力のもとに安全かつ円滑な手術室運用に努めている。
(文責 竹之内辰也)

9. 頭頸部外科

舌・口腔

舌・口腔良性腫瘍摘出術	4
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	22

小計 26

咽頭

咽頭良性腫瘍摘出術	0
咽頭悪性腫瘍摘出術 (外切開)	2
下咽頭・喉頭全摘術	2
斜視鏡下咽頭悪性腫瘍手術	8

嚥下改善手術（原発巣との併術含む）	1
小計	13
喉頭・気管	
気管切開術	16
人工シャント発声手術（プロボックス®留置）	1
喉頭全摘術	8
喉頭垂全摘術（CHEP）	0
喉頭垂直部分切除術	2
斜視鏡下喉頭悪性腫瘍手術	6
小計	33
頸部	
頸部廓清術 （原発巣との併術含む，片側を1とカウント）	82
小計	82
甲状腺	
甲状腺良性腫瘍摘出術	19
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	60
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	6
小計	85
耳下腺	
耳下腺良性腫瘍摘出術	19
耳下腺悪性腫瘍摘出術	4
小計	23
顎下腺	
顎下腺良性腫瘍摘出術	0
顎下腺悪性腫瘍摘出術	0
小計	0
鼻・副鼻腔	
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	2
小計	2
再建手術	
腹直筋（遊離）	1
前外側大腿皮弁（遊離）	3
前腕皮弁（遊離）	1
空腸（遊離）	1

大胸筋皮弁（有茎）	8
前胸壁皮弁（有茎）	1
局所皮弁	0

小計 15

末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）	30
----------------------	----

動注ポート留置	1
---------	---

CVポート留置	0
---------	---

その他（リンパ節生検，気管孔閉鎖など）	20
---------------------	----

合計 300件（PICCは除く）

2022年度の手術件数は300件で，前年比45件の増加だった。再建（遊離あるいは有茎）を要する拡大手術は15件（前年比4件の増加）だった。低侵襲の斜視鏡下経口的手術は29件であった。内視鏡下甲状腺腫瘍手術を開始し，6件の手術を施行した。上記以外の術式には大きな変化はなかった。

(文責 山崎恵介)

10. 形成外科

悪性腫瘍およびそれに関連する再建	61
------------------	----

良性腫瘍	8
腫瘍切除後の組織欠損	53

乳房再建用エキスパンダー挿入	13
----------------	----

(一次11症例，二次2症例)

乳房インプラント挿入	11
------------	----

(一次二期8症例，二次二期3症例)

乳房エキスパンダー抜去	2
-------------	---

乳房インプラント抜去	3
------------	---

乳房インプラント抜去・新インプラント挿入	2
----------------------	---

乳輪乳頭作成	5
--------	---

有茎皮弁	6
------	---

遊離皮弁	9
------	---

植皮	2
----	---

瘢痕，瘢痕拘縮，ケロイド	2
--------------	---

瘢痕拘縮形成術	2
---------	---

その他	8
-----	---

神経縫合	1
------	---

血腫除去等	3
一次縫合	3
その他	1
計	71

他科との手術は30症例、手術の約42%であり、乳腺外科、頭頸部外科、整形外科、消化器外科と手術させていただいています。乳房再建関連手術は41症例でした。使用中止となった乳房インプラントを使用している方で乳房インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫 (BIA-ALC) の発生を心配し、乳房インプラント抜去を行った方は3名、新インプラントへの交換は2名いらっしゃいました。使用中止となった乳房インプラントの抜去や新しい乳房インプラントへの入れ替えは勧められてはおりません。しかし、今後も抜去や入れ替えご希望の方は若干名いらっしゃるかと予想されます。引き続き他科との手術ならびに乳房再建等に積極的に取り組み、患者さんにはご納得いただけるよう対応したいと考えています。
(文責 坂村律生)

11. 眼科

水晶体再建術：眼内レンズを挿入する場合	135件
水晶体再建術＋緑内障手術	2件
緑内障手術	16件
腫瘍手術	3件
硝子体注射／注入	23件
その他	3件
合計	182件

3月までは例年と同様のペースで手術件数は増加傾向を示していたが、新潟県への新型コロナウイルスの蔓延によって8月に急遽、眼科の病棟が感染対策病棟へ転換となり、眼科病棟の消滅、眼科の全手術の中止状態が3ヵ月以上続いた。

そのため、手術件数の大幅な減少、手術予定の修正を余儀なくされた。

相変わらず1名による手術体制であるが、手術の種類が多岐であり、難易度の高い症例も多く、他院から紹介される手術対象患者の比率も大きいためコロナの終息が待たれる。
(文責 原 浩昭)